

『木曾海道六拾九次之内』



歌川広重

「木曾海道六拾九次之内 大井」

大判錦絵揃物の内 天保8年(1837)頃
錦樹堂(伊勢屋利兵衛)版

中山道の各宿場の様子を描いた唯一の風景画、そして歌川広重の街道絵の代表作の一つ「木曾海道六拾九次之内」を、本年も年に一度の特別公開します。“お茶漬のり”でおなじみの「東海道五拾三次之内」の成功を経て、人気絵師としての地位を確立した広重が、意欲も新たに挑んだ中山道の風景。山間を通る中山道ならではの落ち着いた渋みのある画面は、河川や海の青さが印象的な東海道の作品とはまた違った広重の魅力を見せてくれます。ご存じの通り、当館所蔵の「木曾海道六拾九次之内」は、世界に数点しかないと言われる「中津川(雨)」を含む完全なセット。その質の高さは世界的に評価されています。

開館記念展を含み、5回目を迎えるこの特別公開。今年のテーマは「中山道の現在」としました。明治後、東海道は国道1号とJR東海道線におおむね引き継がれました。それに対して中山道は、山間を行くだけに鉄道の敷設の難しさもあったのか、信越線や中央線などに分断されています。そのためでしょうか。その昔、中山道の宿場があった町々の間には、街道で結ばれていた親近感が薄いように思われます。けれども中山道は、物資や人を運ぶだけでなく、はぐくまれた歴史やそれぞれの土地が持つ文化をも、きっと運んだはずで。本展ではそこで、170年前に描かれた街道絵と共に、中山道の宿場があった各自治体のご協力を得て、中山道の宿場の“現在”を展示させていただこうと思っています。

温故知新、とは言い過ぎですが、改めて中山道が育んだ文化を見直し、共有できる未来像をも見てみたいと思っています。

9月1日(木)～10月2日(日)

毎週月曜日(祝日を除く) 祝日の翌日(土日祝日を除く) 休館

会期終了後、10月3日(月)～5日(水)まで展示替え休館します。

関連イベントがあります。14分をご覧ください。

編集後記

夏の全国高校野球選手権の県代表として甲子園に出場した土岐商業高校の選手に恵那市出身の選手が6人いるということ、応援にも熱が入りました。今回、総合型地域スポーツクラブの取材で「子どもたちにいるいるなスポーツを経験してもらい、自分にあつたスポーツを見つけて、中学校、高校と活動を続ける中でトップアスリートが生まれるようになるかも知れない」という話を聞きました。野球の場合には、スポーツ少年団、硬式野球のクラブ、高校という形で活動を続けていく中でさらに上を目指すことができると思います。市内にもいろいろなクラブができ、新聞・テレビで活躍する人が現れる日が来ればと思います。

次号は9月15日号

発行日は9月15日(木)です

広報えな No.20

2005年(平成17年)9月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 秘書広報課
岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

☎26-2111 / ☎25-6150

http://www.city.ena.gifu.jp/

✉info@city.ena.gifu.jp